

S🌱NAPIS ニュース

社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

No.52 2020. 8

今月のテーマ：戦争がもたらす死と破壊



太平洋戦争末期のある日、
隣家に爆弾が投下され破壊された。一瞬のできごとだった。
今、あったものが、今、なくなった。
この時はじめて自分の「いのち」を確認した。10歳だった。

R.T.

カトリック大阪大司教区 社会活動センター

シナピス 

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス(からし種)です。
イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、
やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

TEL 06-6942-1784 FAX 06-6920-2203 E-mail sinapis@osaka.catholic.jp

石井望

「戦争がもたらす死と破壊」。日本の戦後生まれの私にとって、人やメディアを通して得る情報に基づいて書くには正直距離感を感じるテーマです。

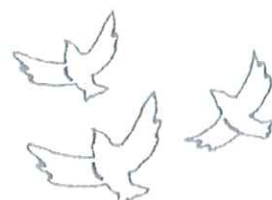
VoaJの青年の声の中に「戦争がない＝平和か」という問題提起がありました。平和を、自分自身のメンタルヘルスの実現という幸せを前提としてみなおそう、そうすれば人の幸せへの配慮を助け、自他ともに幸せになる平和に資するというのです。

現教皇の回勅「ラウダート・シ」(2015年)の主テーマはエコロジーですが、全人的な四つの関係性の文脈の中で理解されています。2020年1月1日の平和祈願日のメッセージでも触れられています。

それは「自分との平和」、「他人との平和」、「環境との平和」、「神との平和」の四つの関係性です。先ほどの青年の提言は、ラウダート・シの自分との平和にも通ずるものがあります。また四番目の神との関係性は、自分自身のこと、主義や宗教の限界も自覚して、すべての人に共有できる「善」を求め続ける知恵と言い換えることが可能かもしれません。

平和を、自分、他人、環境、神との関係性から問い直すと、逆に「関係性の欠如が戦争をもたらす」ということができるでしょう。「平和運動」の中でも後回しにしているかもしれない身近な取り組み、自分との関係、環境との関係、をもう一度見直したいと思います。

スペイン・カタロニア民謡「鳥の歌」をご存知でしょうか。約50年前、チェロ奏者パブロ・カザルスが国連本部で平和賞受賞の折に、「私の故郷の鳥は、ピース、ピースと鳴くのです」と語り、演奏したエピソードは有名です。「ピース・ナイン」のテーマソングにも引用されています。もとの歌の大要は「長い夜の闇に光が降り注ぐ、鳥たちは祝い歌う、救い主が生まれた。闇は消えて命が生まれた」という賛歌です。氏は二年後に96歳で亡くなるまで、独裁政権の暴力、ファシズム、それを容認する国々に抗議し、核に反対し続けました。今も多くの方がこの曲を演奏しますが、それぞれに魂に響きます。立場は異なっても、「祈る」という四つ目の関係性が身近な共感になるのでしょうか。



今月のページ

■ ニュースレター 目次 ■

- 1 巻頭言
- 2 大阪大空襲のときのこと
- 3 障がい者委員会より
- 4 子どもたちに伝えたい平和
- 5 時報8月号より
- 7 教えてください～！！第五弾！
- 9 みんなの掲示板
- 11 曼珠沙華と紀州の茶粥④
- 12 沖縄とわたしたち
- 13 憲法がかわったらどうなるの？
- 14 シナピスの風
- 15 あとがき

■ チラシ・ご案内 ■

- ・シナピスの風（A3小教区と修道会のみ）
- ・8月の祈り
- ・忘れないあきらめないカレンダー
- ・日本カトリック司教協議会 いのちを守る月間
- ・医療用防護ガウンのご案内
- ・核なき平和世界基金
- ・ピース9の会お知らせ
- ・小冊子「キリストと同じ夢を見る」
- ・じんけん SCOLA
- ・書籍案内
- ・映画案内



戦争がもたらす死と破壊

長く生きてこられた方々の語る言葉は重い。

肉親や、知り合いのお年寄り、教会のおじ様、おば様。私たちの身近にいらっしゃるお年を召した方の日常生活のふとした折に語られる戦争の世のおはなし。戦争を思い起こす 8 月に、生きてこられた証を書きとめ、ここにご紹介いたします。

ある教会のおじいちゃまのお話です。

大阪大空襲のときのこと

私は昭和 2 年、大阪市西成区聖天坂に生まれました。天王寺師範学校に通っておったおかげで、徴兵猶予され、兵役を逃れました。八人きょうだいの上から 4 番目でした。

私の家は南海線「天下茶屋」駅の二つ向こうの方で小学校の裏に建っておりました。昭和 20 年 3 月の大阪の大空襲に遭いました。空襲警報が鳴って、木造の家では危ないので、母は妹 2 人を連れて安全な場所へ行くことにしまして、私と父は、家や町内の人を守らねばと家に残りました。母と妹たちが公道へ出たとたんに爆弾が落ちました。爆風で家が歪みましたが、ちょうど小学校の校舎の裏に家が建っておったおかげで、倒れなかった家の中で私と父は命拾いいたしました。母と妹たちは家の外で爆弾の破片に当たってしまいました。母は、亡くなった小さい妹を背負い、大怪我をした妹の手を引いて帰ってきました。母の姿は無残なものでございました。病院へ連れて行き、見せられないと言われたんですが、私ら家族ですから「そばに」と頼みまして。母は全身包帯だらけで三日間苦しんで亡くなりました。あの時、何で、一発でやってくれなかったんか、余計に苦しんで、苦しんで、本当にかわいそうでございました。

こんなことまでして何で戦争を続けたのか、話し合っただけで妥協すればよかったものを。人間の潰れたものはなおせません。本当にかわいそうでございました。

「コロナ禍と依存症予備軍」

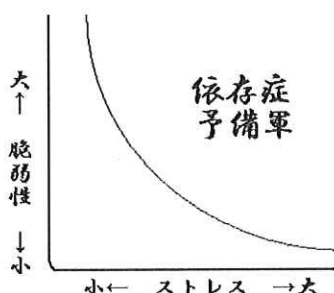
教区障がい者委員

住吉教会 吉川 康夫

昨年の2019年9月に共に歩むミサを開いて1年近く経つ。今年は、同じ場所に大勢が一堂に集まって開催することが、むずかしい。何とか良い方法がないかと、協議を重ねている。昨年は、新しく神戸ダルク・ヴィレジを招き共同祈願にも参加してもらった。秋に委員会に招いて、「依存症」についての学習会も開いた。

コロナ禍で他府県の移動制限と休業要請の中、パチンコに出掛ける大勢の人たちがいる。夜の町（バーやホスト・クラブ）で感染してしまったと、ニュースを聞くにつけ、感じることもある。感染した人たちを“悪い”とは、言えない。

テレビ・タレントの不倫ニュースも飛び込んできた。週刊誌やテレビのワイドショーのような関心も暇もない。ただ、“依存症予備軍”という言葉が浮かんでくる。



退職して久しい。現役時代、毎週のように出張した。飛行場や新幹線の駅で、朝からビールを飲んでいるサラリーマンをよく見かけた。旅行で、はやる心に朝から飲んでしまうのかもしれない。しかし、明らかに仕事を前にして飲みたい気持ちを抑えられないのを、アルコール依存症予備軍と言われている。予備軍には、アルコール依存症予備軍、ゲーム依存症予備軍、セックス依存症予備軍、買い物依存症予備軍、などなどがある。脆弱性には個人差はある。しかし、普段はコントロールが出来ていても、ストレスが大きく掛かった時、病的になってしまうのではないかと。さらに、ストレスは一旦弱まった後、再びストレスが掛かった時にさらに大きくなる。まさに、コロナの第2波・第3波が心配だ。

ナチス強制収容所からのサバイバー（生還者）で、『夜と霧』の著者である精神医学者のE・フランクルによれば、収容所内に「解放軍がやって来る。」という噂が流れた。でも、来なかった。その時に死者が増えた。しかし、フランクルがいた棟内では一番サバイバー（生還者）が多かった。フランクルは、収容者からの「生きていることにもうなんにも期待がもてない。」という言葉に対して、『わたしたちが生きることからなにを期待するかではなく、むしろひたすら、生きることがわたしたちからなにを期待しているかが問題なのだ。』と、答えたという。私たちが“主”ではなく、“従”であるというコペルニクスの転換をする。

さて、神戸ダルクでは、依存症からの脱却を禁止ではなく、スピリチュアルな生活をする事、と聞いた。私は今、森田療法（日本発の精神療法）を実践している。とらわれから脱却するために、作業をする療法だ。これに祈りが加われれば、修道生活と似ている。禁止と罰ではなく、喜びに溢れる生活が嬉しい。東京アラートのような警告よりも、大阪通天閣への緑のライトアップの方がずっと良い。人は叱られるよりも褒められる方が、頑張れる。

少しずつ、新型コロナ・ウイルス（コビット 19）のことが分かってきた。どうも、思ったよりも感染力は弱いようだ。しかし、恐れが大きい。この恐れは、障がい者に対するスティグマ（恐れ）と似ている。スティグマについては、SINAPIS ニュース 2019年8月号に投稿したので再読していただきたい。

感染者本人に留まらず、感染者家族への差別。医療従事者への差別、タクシー乗車拒否から、医療従事者子女への保育園登園拒否などなど、信じられないことが起きた。

スティグマ（恐れ）を克服するには、双方向の情報保障が必要だ。一方通行では良くない。分かち合いが、とても大切だ。ネットで見つけた「大事な5つのこと」を実践したいと思う。

コロナウイルスに負けないために **大事な5つのこと**

- 1 Stay Healthy
(体力・免疫力を保とう)
- 2 Stay Positive
(ポジティブな気分をいよう)
- 3 Stay Connected
(つながりを保とう)
- 4 Stay Thankful
(感謝の気持ちを忘れずに)
- 5 Stay Focused
(大事なことは考え続けよう)

子どもたちに 伝えたい平和



生き方を変えるアクションを！

姫路地区 網干教会信徒 藤保君子

教皇フランシスコは、「すべての被造物は神からの賜物」と、平和のために祈っておられます。

20年ほど前、カトリックナースの黙想会でF司祭の研修を受けたことを思い出しました。講話の最後に、「現代の悪魔は環境破壊問題です。とどまることを知らない私たち人間の欲望が、土地や海、空を汚し動植物や生物を圧迫して温暖化を招いています。海水温が上昇すればまず弱いものから犠牲になります。人も貧困層は低地に住んでいるからです」とおっしゃいました。

21世紀になってはや20年。この間に科学者が警鐘を鳴らしても、臆面もなく自国優先する為政者が増えています。地球上を持ち回りで会議を何度重ねても一向に解決できなかった。そこに今年新型コロナウイルスは、あっという間に世界を劇的に変えてしまいました。多くの犠牲者を出し、まだおさまる気配は見えません。

信州の親族は果物栽培に関わっていますが、高度成長期から季節に逆らっても、より早く、高価な果物を出荷したことも地球に負荷をかけていました。

今、私たちは殿さまよりも贅沢な生活をしています。寒い冬は暖房、熱い夏は冷房を使い、蛇口をひねれば水がでる。コロナ自粛で人と接しなければ心は孤独だ、と身に沁みました。

コロナ禍で復活祭も公開ミサ中止でしたが、3ヶ月ぶりに信徒と再会し、心から、「主の平和」とあいさつできる喜びを味わいました。

私の命はご先祖様からの偶然の積み重ねによってこの世に生まれました。命のバトンを持つ走者の一人にすぎません。ほんの少しの間、この世での役割を果たしつつ次の世代へ、次々世代へ、そしてこの世では相まみえることのできない子孫へと地球を渡していかなければなりません。

今の生活を維持し、70億人余の人口を養うには地球が二つ必要だとか。

私たちはコロナ禍をチャンスととらえてシンプルライフ（質素な生き方）にチェンジしましょう。今までのような生活をくりかえしては、絶対に地球は残せません。それは年々巨大化する風水害によっても明らかです。生き方を変えるアクションを！ 祈るだけでなく、祈りを行動にしていかなければなりません。そののちに、この地球が静謐な光を放つ星に変わることを切に願っています。

全てのいのちは神からの賜物——地球は未来の人や生き物のためでもあります。何としても残るように、今生きている人々と子どもたちに伝えたい。

イエスにならう生き方を求めて

悩みを持つ人々の痛みに寄り添い、
その悩みを少しでも分かち合うことのできる、
教会共同体をめざして

日本カトリック司教団著「いのちへのまなざし」
増補新版より

社会福音化部門

新設 新福音化委員会

委員長 ヌノ・リマ

信じる喜びを新たに

皆さん、こんにちは！

新設された新福音化委員会の担当司祭の任命を受けました。もしかすると、「新福音化」という言葉は耳慣れない言葉かもしれません。私はこの言葉で、教皇聖ヨハネ・パウロ二世の「新しい福音宣教」という言葉を連想します。教皇様は社会的、文化的、経済的、政治的、宗教的に変化した現代社会に「新たな熱意と方法と表現をもって」福音宣教を呼びかけました。

「福音化」というのはイエス様の『よい知らせ』（＝福音）を受けて、福音に従って生きる変化を表します。その意味では、福音化はけっして新しいものではありません。

教会はイエス様を信じる喜びを分かち合うことによってあらゆる時代、あらゆる文化の人々の「福音化」に貢献してきました。急激に変化する今の時代に新福音化委員会は「新たな熱意と方法と表現をもって」イエス様を信じる喜びを分かち合うために役に立てればと思います。具体的な活動は今から考えていくというところなので、皆さんの知恵を貸してください。よろしくお願いします。

わたしたちは一つの人類共同体(教皇フランシスコ)



コロナ禍で考えようすべてのいのち

コロナ禍で私たちの生活はどのように変わったのでしょうか。目頃、当たり前のようにならなくなった。仕事がなくなり、給料が激減。広がる格差、貧困。ネットだけでつながる人間関係など。そして、これまでに社会で疎外されていた人たちが一層弱い立場に追い込まれていることが、今少しづつ見えてきています。国連人権高等弁務官事務所はこの状況に対し、「誰一人取り残さないこと」、「排除されるおそれがあるかもしれない人々（マイノリティ、移住者など）に対し特段の配慮」をすることを求めています。教皇フランシスコは、新型コロナウイルス感染拡大が収束した後の世界において貧困のパンデミックを終わらせるよう世界に訴え、「より公正でキリスト教的な精神を表す社会を、名ばかりではなく現実に力を合わせて築いていかなければ、この苦しみをすべて無価値とするでしょう」と述べておられます。

身近でおこっていること

自粛で経営が苦しくなった事業所では、非正規労働者が真っ先に解雇されました。多くの学生がアルバイトできなくなり、学業の継続が難しくなっています。介護、福祉施設の閉鎖により、入所、通所している高齢者、障がい者が行き場を失いました。また学校も閉鎖され、在宅勤務の日々が長引くと、家事、育児、介護の負担は普段以上に女性にのしかかりました。大勢が家にひしめく中でストレスがたまり、DVや児童虐待の危険も高まりました。スマホやパソコンに不慣れな人は、外出制限の中で家族以外の人とのつながりを失い、孤立感を深めるということも起こっています。特別定額給付金10万円は世帯主の口座に一旦振り込まれるので、DVから逃れていて受け取れないとの声もシナピスに届いています。

さらに感染者が肩身の狭い思いをし、医療従事者の子どもが感染を疑われ保育所から排除される出来事もあり、ハンセン病差別問題から何も学べていないことがあらわになりました。イエスがされたように、弱い立場にある人たちを心にとめ、病気に対しては介護・治療が大事なのであり、偏見差別は許さないという姿勢を示すことが、コロナ禍で改めて見えてきた課題です。

釜ヶ崎では

緊急事態宣言により、外出自粛と言われても家のない人がここにはいます。住民票がないので10万円の給付金も支給対象外。現在、三密対策で登録制にしたシェルターに200人近くが寝泊まりし、ここに住所を置くことで、給付金を受け取れるよう、支援者は国や市と交渉中です。しかし、通帳を持たない人にとって、いつ給付金が手元に届くのかわかりません。

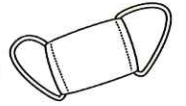


毎年、釜ヶ崎の三角公園では夏祭りが行なわれます。今年は自粛せざるをえませんが、亡くなった仲間たちの慰霊祭はなんとしても続けたいとみな願っています。コロナ禍によって私たちは変わる時です。「隔ての壁のない、誰もが受け入れられ、ともに集う町」として、釜ヶ崎も大きな転換期を迎えています。ある野宿者におにぎりを2つ差し出すと「ひとつだけでいい、もう一つは必要とする人にあげて」と言われました。このことばがそれを物語っています。

私たちの生き方は経済優先に傾いてはいないか。だれも排除しない、取り残さない。分かち合う社会、いのちを大切に作る社会をと、釜ヶ崎はこれからも発信していくでしょう。

朝鮮学校の子どもたちは

日本が植民地支配した時代、渡航してきた朝鮮人の子孫は日本で生まれ育ちました。朝鮮学校は祖国の言葉を教えたいとの願いから設立されました。戦後、国は朝鮮民主主義人民共和国との国交を結ばないままで、日朝の関係は悪化し、学校への補助金をカットする自治体が増え、高校授業料無償化の対象からも外されています。更にコロナ禍の中、さいたま市が幼稚園、保育所へのマスクの配布から朝鮮学校幼稚部を除外する出来事が起こりました。関西にも朝鮮学校は多くあり、他人事ではありません。また文科省は「『学びの継続』のための学生支援緊急給付金」（以下「緊急給付金」）の配布から、各種学校であるとの理由で朝鮮大学校を排除しています。国立を初め多くの大学が大学校卒業生の大学院受験を認め、国も社会福祉士などの国家試験の受験を認めていることと明らかに矛盾しています。



ウイルスは国籍を問いません。市民の中からは抗議の声が上がりさいたま市はマスクを配布しました。緊急給付金を配布するよう要請する署名活動も始まっています。

難民・移住者たちは

今回のコロナ禍で、シナピスで支援している難民・移住者もまた大きな打撃を受けています。なかでも就労が認められていない仮放免の人々は、通常、教区内で奉仕活動を行い、寄付による生活援助を受けていますが、緊急事態宣言発令に伴う教区内建物の閉鎖でそれができなくなりました。当座の生活費は閉鎖前に渡したものの、緊急事態宣言の延長でみる内に困窮し、しばらく水しか飲んでいなかったという人もいました。入管では、感染防止のため収容者と支援者との面会ができなくなり、外部からの眼差しが遮断されたことで、不安を訴える収容者もいました。一方、北地区では、仕事を失い困窮していた技能実習生たちの情報をつかみ、地区として支援に乗り出したそうです。

その他、支援者や当事者が感染疑いや濃厚接触者になり、支援に出向けなくなった時にどうするのか、今後の課題として残りました。公的支援から排除された人々は、日々の生活に支援者の助けが欠かせません。緊急事態を言い訳に軽んじられるいのちがないよう、方法を模索しています。

教えてください～！！第五弾！

「エコロジカルな回心」とは？



*読者のみなさんと疑問も発見も分かち合いながら作っていきたいと思っているこのコーナー、先日初めて、「もう一度今までの記事をデータでもらえないか」とお問い合わせが来ました。うれしいです…！さて今月は、先月の海のエコラベルに続き、日々の暮らしのヒントとして「エシカル」という考え方を知りましたのでご紹介します。

エシカル???



エコにかかわる情報を集めていて、「エシカル」という言葉をよく見かけるようになりました。エシカル協会のホームページによると、エシカルとは、英語で「倫理的」という意味で、一般的には、法的な縛りはないけれども、多くの人たちが正しいと思うことで、人間が本来持つ良心から発生した社会的な規範のこと。なかでも普及活動の際には、人や地球環境、社会、地域に配慮した考え方や行動のことを指すときに使っているのだそうです。地域の活性化や雇用なども含む、人や地球環境、社会に配慮した消費のことを「エシカル消費」といいます。



「エシカル消費」って、日用品や食料品を買う時に、その商品を、誰が、どうやって作ったのかも考えて買おうということかな。先月の海のエコマークのように、選ぶ目安となるマークが色々あるんだって。

どんなもの？



FSC® 認証

適切に管理されていると認められた森林から生産された木材や、その木材を使用した製品につけられる。

こういうマーク！



有機 JAS

JAS 法で定められた有機生産基準で生産、加工された食品。農薬や化学肥料の使用を極力避け、自然循環機能を活用し生産されていることを示す。



レインフォレスト・アライアンス認証

農園の環境、土壌・水を含めた天然資源、生態系や生物多様性を守り、労働者の労働条件やその家族・地域社会を含めた教育・福祉などの厳しい基準を満たした農園に与えられる。



国際フェアトレード認証

その原料が生産されてから、輸出入、加工、製造工程を経て完成品となるまでの各工程で、国際フェアトレード基準が守られていることを証明。

各ラベルの説明は、一般社団法人日本サステナブル・ラベル協会 HP より

あんまり見たことないような気もするけど…

と思っていたら、実は、とても身近なところにありました！

長年お世話になっている地元の生協、ふと思いついてカタログを見てみたら、あることあること！全然気がついていませんでした。生協のエシカルマークは、環境や生産者の保護のために売り上げの一部を使う商品や、一定の基準をクリアした認証商品を総称するオリジナルのマークだそうです。



鹿児島県の国産うなぎを守る取り組みに売り上げの一部が使われる。



有機栽培で作った中国産もやし



レインフォレスト・アライアンス認証のエクアドル産バナナ

いずみ市民生協カタログより



みなさんがご存じのことを教えてください

たとえばこんなこと

1. 環境のためにしていること、昔から言い伝えられている知恵

2. 環境保護のためのいろいろな動き

☆お名前またはニックネーム _____

☆連絡先（メールアドレスや電話番号など）

☆投稿方法 FAX：06-6920-2203 / メール：sinapis@osaka.catholic.jp

QRコード*

*QRコードの読み込みには、スマートフォンなどでQRコードリーダーをダウンロード
する必要があります。

☆締め切り 2020年8月17日（月）まで





みんなの けいじばん



こんにちは！みなさんいかがおすごでしょうか。

以前チラシでもお知らせしました、シナピススタッフの宮内陽子さんの著書『日中戦争への旅 加害の歴史・被害の歴史』を読み、読者の方より感想が寄せられました。

また、毎年平和を祈願しながら行進を行っている日本山妙法寺のご一行が、行進の途中でシナピスを訪問してくださいました。合わせてご紹介します。



「日中戦争への旅－加害の歴史・被害の歴史」 宮内陽子著

近藤富男（元公立中高教員）

著者宮内陽子さんは、この数年「神戸・南京をむすぶ会」「兵庫県在日外国人教育研究協議会」共催の訪中団団長をつとめている。この紹介文を書くにあたってひとつのエピソードを紹介したい。自分の恥をさらすことになるのだが、同時に宮内さんの情報収集力、収集に注ぐエネルギーの大きさを示すものでもあるからである。

実は、わたしは、この南京訪問ツアーに参加したのは、直近の三回のみである。その一回目の訪中がおわって、つぎの訪問先をどこにするかの話がすすんでいたある日、宮内さんから、「ショウコウ・ジョウトク」にいかがとおもっている、ときいた。それをきいたわたしのあたまにうかんできたこと、いわずもがなである。この文をよんでいるみなさんのあたまにもおそらくそのときのわたしとおなじ場所がうかんでいるのではないか。わたしは「ショウコウならきつとうまい紹興酒がのめるにちがいない」とおもったのである。ところが、「ショウコウ」は「紹興」ではなくて「廠窖」だった。

廠窖事件は、中国各地で日本軍が起こした中規模、小規模の「南京事件」の中で最大のもので、事実たいへんな虐殺なのだが、本当に資料がすくないらしく、日本国内の研究者のあいだでもほとんど知られていない。現地の研究者からして、なにか資料があったらおくとてほしいとたのまれたほどである。

廠窖ではバスで移動する途中、偶然、みちばたで農作業をしていた 91 歳の生存者にであった。中国語はわからないが「リーベンレン（日本人）」ということばのひびきにこの人の感情があふれていた。「父は日本軍の犠牲になり、母も妊娠していたのに殺された。最近お墓を移転する必要があってほってもらったら母の遺骨とあかちゃんの遺骨があった。日本兵は凶暴なやつばかり、ひとを殺し、いえをやきつくす。日本政府は被害にあったものへの補償をしようとしなない。」このとき宮内さんはこの老人の正面、手がとどく位置でこの話をうけとめていた。

この訪中団は、出発前に参加者のもとに平均 150 ページ～200 ページもある「フィールドワークノート」とよばれる資料がとどく。この材料をあつめるのもほぼ、団長・宮内さんである。つまり、この旅はいつも、その年のはじめのころの著者による事前研究と資料あつめにはじまるといってよい。そして、実際のツアーがあり、年の暮れの報告集発行でおわる。この報告集には参加者の感想があつめてあるのだが、団長としての著者のふりかえりがすごい。本人いわく「行った気になる報告集」、その年のツアーの様子がいきいきとしたことばで正確にかかっている。事前の調査とツアー中の細やかなメモがそれを可能にするのであろう。

次ページに続く



そんな著者が、23回のツアーをふりかえってかいたのがこの本である。第1部は「南京事件をたどる」として、実際に南京でおこなう碑めぐり、南京大屠殺遇難同胞紀念館での追悼式典参列、民間抗日戦争博物館訪問、南京利濟巷慰安所旧址陳列館訪問などのこと。第2部は「日中戦争をたどる」として、南京以外に一か所訪れる場所、第15次の海南島から、台湾、無錫・上海、広州、雲南、徐州・台兒莊、岳陽・廬窖・常德・長沙、桂林までの9次におよぶ旅の記録がおさめられている。そのすべてが、平易な、なめらかなことばでつづられていて、内容はこく、ふかく、おもいものであるにもかかわらず、よみはじめた読者はしらぬまにその語りのなかにひきこまれ、一気によめてしまう。そして、おそらくはよんだ人がみな、つぎの機会があれば参加したいとおもうであろう、そんな本である。是非一度、手にとってみてほしい。購入して手もとにおいていただくのが一番であるが、最寄りの図書館でかりてでもよんでいただきたい、おすすめの一冊である。

コロナでも平和行進

日本山妙法寺のみなさんがいらっしやいました

7月14日、毎年、憲法改正反対、核兵器や原発、軍事基地の廃絶などを願って平和行進をしている日本山妙法寺の僧侶と信者のご一行が、シナピスにお寄りくださいました。本来だと7月から8月にかけて東京から愛知、広島を経て長崎まで行進する予定だったのですが、今年はコロナ禍の影響で規模が縮小されたそうです。くしくもこの日は大雨。足元がずぶぬれになりながら大聖堂に到着されました。

シナピス副センター長とスタッフが出迎え、しばし歓談のひと時を持ちました。お話しをされていて興味深かったのは、仏教とカトリックは、まったく違うように見えても、教えに似ているところがあるということです。

歓談後も雨は止まず、土砂降りの中を帰って行かれました。平時でもコロナ禍でも変わらずに行進を続ける姿は、見る者の心を打ちます。継続は力となることを改めて教えられました。

また、難民・移住者のみなさんと、差し入れとご寄付までいただきました。心より感謝申し上げます。

私たちも、ともに平和を祈ります。



「あんなこと、こんなこと」「教えてください」「探しています」、ともにFAXかメール、右のQRコードからご投稿ください。QRコードの読み込みにはスマートフォンなどでQRコードリーダーのダウンロードが必要です。

☆投稿FAX：06-6920-2203 メール：sinapis@osaka.catholic.jp

☆締め切り：2020年8月17日（月）まで





曼殊沙華と紀州の茶粥 ④

～ 江戸時代の和歌山の「転び」キリシタンと「非人村」～

☆ 道頓堀キリシタン：江戸時代大坂の町づくりと「非人村」

大阪の道頓堀、東急ハンズのある「三休橋」はかつて市中引き回して刑場に連行される人たちが三回目の休憩をし、カプセルホテルとサウナのビルのところで処刑、家電量販店のあるところには首が晒されたそうです。江戸時代の千日前の角座の客がその風景を見ていたそうです。

「道頓堀」の名は、1612年豊臣政権下の大坂（大坂）の町づくりで新川開削事業を指揮し、大坂夏の陣で戦死した成安道頓に因んでいますⁱ。江戸時代初期の大坂には土木工事のために、道頓堀、天満、天王寺（悲田院）、鳶田（とびた）の4か所の人足寄せ場に各地から技術者や労働者が集まりました。この4か所は町の拡大と共に、市中の牢人や放浪者の監視、治安維持や刑吏の役割、また困窮者の救済などの役割も担う、垣外（かいと）と呼ばれる「非人村」を形成しました。

☆ 大坂の「非人村」の中核をなした「転びキリシタン」

キリシタン禁制とともに、大坂の4か所のひにんむら（垣外）には難を逃れたキリシタンも多数流入したようですが、1630年代に弾圧が厳しくなると多くのキリシタンは転び（棄教すること）、「非人村預け」となりました。地元の竹林寺が寺請し（寺への所属を証明すること）、庄屋が切支丹改め（キリシタンをやめたこと、二度と戻らないことを宣言させること）を行い、転び切支丹類族生死改めで子孫にいたるまでいわゆる戸籍のように管理し消息を奉行に年二回報告しました。この「生死改め」によると、4つの「非人村」垣外の人口の約40パーセントが転びキリシタンとその家族子孫でした。しかも「転び」の一族が長吏など垣外の中核部を担っていました。ⁱⁱⁱ

☆ 和歌山の城下町づくりと「吹上非人村」

和歌山岡嶋かわた村の長吏が、旧「吹上非人村」の80人のキリシタンは「御仕置」を受けて「非人村」が退転し、城下の維持管理等の御用について自分たちは手一杯だから、新たな「非人村」が必要だと進言しました。それに応え、藩主が新規「吹上非人村」に一町四方の土地を与えた記録があります^{iv}。その時に招聘されて非人村の長吏になったのは、大坂の鳶田垣外にいた徳島出身の「転び切支丹」中村久三郎一族でした。^v

☆キリシタンとの縁が深い、新旧二つの「吹上非人村」

旧吹上非人村は、中世以来のハンセン病や困窮者の村を前身としたようで、江戸時代初期のフランシスコ会の建てた療病院でキリスト教と出会った住民が入信し、キリシタン禁制下で住人80人が「御仕置」を受けて退転した村です。そして新規吹上非人村は、新たな城下の維持管理のために大阪の転びキリシタンの家族が招聘されて再建した一町四方の村でした。警察や刑吏だけでなく、城下の放浪者や重病者を世話する救護所やホスピス、生業のための「乞食」の組織化など、社会福祉事業の役割なども担う場になっていきます。^{vi}

今回は、キリシタンと縁の深い紀州の「非人村」の役割さらに、地方や村の「非人番」の役割を見ましょう。

ⁱ 千日前弘昌寺住職、鳥居弘昌氏談、氏ご自身の先祖はキリシタンだったそうです。

ⁱⁱ 成安道頓もキリシタンだったという説があります。

ⁱⁱⁱ 塚田孝「大坂の非人村」、『悲田院長吏文書』、『道頓堀非人関係文書』ほか

^{iv} 『城下町牢番頭仲間の生活』『城下町警察日記』他

^v 藤原宥和「天王寺村転切支丹類族生死改帳の研究」、小野田一幸「天王寺村における転びキリシタンと類族の動向」

^{vi} 藤本清二郎「城下町世界の生活史」

本土では緊急事態宣言の時以上に感染が拡大していますが、沖縄でも同じ推移をたどっています。県内の感染者は231人（7月28日現在）ですが、感染しているにも関わらず、カウントされていない人々がいます。米軍基地の将兵です。7月7日、米軍普天間飛行場の軍属5人の感染が確認されました。県が人数を把握し公表できたのは11日。その後感染者数は急増、あっという間に205人（7月25日現在）となりました。24日現在、キャンプ・ハンセン、嘉手納基地などにも感染は広がっています。米軍は、感染防止のための指示や行動制限が守られていないことを認めています。県民が自粛生活を送っているさなか、6月半ばや7月4日のアメリカ独立記念日の前後、公園やビーチで無許可で数百人規模のパーティを開き、中にはマスク無しで肩を組みにぎやかに騒いでいる様子も投稿されており、その緊張感のなさが県民の怒りを買っています。



日米地位協定の壁

米国の感染者数は世界最多で、日本政府は米国からの入国を原則として拒否しています。しかし日米地位協定によれば、日本の空港、港を使わなければ、つまり軍港から、または基地を使えば米軍将兵はパスポートなしで日本に入国でき、検疫の対象にもなりません。米軍基地間の往来も自由です。感染者がでても軍の機密事項ということで詳細な情報は公表されません。今回は県の強い要望で公開したものの、それなしでは事態は闇の中です。

玉城知事は上京し、基地から入国する米軍将兵のPCR検査徹底、米国から沖縄基地への移動の中止を要請、検査は義務付けられましたが、政府は従来通り地位協定の見直しには消極的です。

コロナ禍で起きている分断

- ・訪問の自粛を求める
米軍普天間飛行場のある宜野湾市の介護関係事業者が、他の市町村を訪ずれた時、訪問自粛を求められるという事態も起こっています。
- ・病院が立ち入り制限
基地従業員や家族が病院の立ち入りを制限されました。病院は「配慮が足りなかった」と謝罪しましたが、通院していた女性は「突き放されたような気持ち」と語りました。

米軍の将兵、家族も当然基地外の飲食店、スーパーなどに立ち寄ります、住民との生活圏は共通しています。そんな中で、米軍の軍事を優先させ、感染防止策が不十分なままだと市民の間への感染拡大は避けられません。また基地間移動の自由により、他の都道府県の基地へと感染が拡大、市民との接触によりそれが全国へと波及する恐れも指摘されています。

歴史に触れよう！

「地上戦の日々⑤ 久米島での出来事」

久米島は沖縄本島の西100kmにあり、今はダイビングのために訪れる人も多いリゾート地です。沖縄戦末期、米軍は島に上陸する前に工作隊を潜入させ島民を拉致、わずかな人数の守備隊しかいないことを把握していました。抵抗もなく上陸した後、捕虜とした郵便局員安里正二郎さんに「降伏勧告書」を持たせて、山にこもる守備隊まで届けさせました。捕虜の安里さんには米軍の命令を断るすべはなかったにも関わらず、守備隊は安里さんを米軍のスパイと決めつけて殺害しました。安里さんを帰せば米軍に守備隊の情報が伝わること、他の住民が米軍に味方することを恐れ、見せしめのために殺したと考えられます。根底には、住民を疑い、恐れていた日本軍の心理が関係していたとも言えます。安里さんが殺害されたのは6月27日、既に正規戦は終了していましたが、久米島には伝わらずゲリラ戦を続ける中で起こった事件です。また守備隊は拉致されていた島民とその家族も殺害、8月15日以降も住民殺害は続き、22名が犠牲になったと言われます。守備隊長は結局捕虜となり生還し、戦後、「軍人として間違ったことはしていない」と語り、また戦後の混乱の中で、民間人殺害の責任も問われていません。

憲法が変わったらどうなるの？ 第21弾

戦争も平和もわたしたち次第



75年前の7月26日、大阪市東住吉区田辺に原爆の模擬爆弾(1トン)が落とされたって。死者7人、重軽傷者73人、焼失倒壊戸数485戸、罹災者1645人だったそうだよ。追悼式の様子をニュースでみた。



模擬爆弾ってことは、原爆の投下練習に使ったってこと？
そしてそのあと、広島と長崎に……。

こういう戦争の話聞くたびに思うけど、人ってなんでこんなことができてしまうんやろね。想像できる？ 私は想像ができない。

戦争になったら、人間は信じられないようなことをやってしまうんやね。



これは大阪だけではなく日本の数十か所の地域に落とされたとも聞いた。

この時被災した龍野繁子さん(95歳)は

「自然災害はどうすることもできないけど、平和ということに関しては、人間の力でいくらでもできるんじゃないですか」と訴えておられた。

そのことばを聞いてふと思出したのが憲法第12条の「**不断の努力**」

そ！



不断の努力？



憲法第12条 国民の権利と義務

この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。又、国民は、これを濫用してはならないのであつて、常に**公共の福祉**のためにこれを利用する責任を負ふ。



でも自民党憲法改正案をみると、

第十二条 この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力により、保持されなければならない。国民は、これを濫用してはならず、**自由及び権利には責任及び義務が伴う**ことを自覚し、常に**公益及び公の秩序**に反してはならない。

わたしたちは、どんなときも自分たちの権利を守り、主張しなければ、それを保持することができない。

私たちの暮らしは、わたしたちの不断の努力がなければ守り抜くことができない。

私たちの自由、権利を「公」の力、国がコントロールするようなことになったら……。

と書いてるけど

自由及び権利には責任及び義務が伴う＝自由と権利に制限がついてる！？

「公益」＝「国のため、国家のために」と言いかねない？

「公の秩序」＝国民から見た秩序ではなく、権力を持つ側からみた秩序？

要するに「公」を二つもつけて、個人の自由も権利も国の意思一つでどうにでもできるということじゃない？



わたしたちは今、不断の努力をしているといえるのかな？

“へだての壁をとり壊して”

-エフェソ・2-14-

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピスの風

第129号 2020年8月1日発行

戦争がもたらす死と破壊を考えて

日本では、広島、長崎、沖縄。ヨーロッパでは、アウシュビッツ・ビルケナウ。シリアでは、アレッポ。また、他の多くのところ。天の父よ、これらの名前は、戦争がもたらす死と破壊を具体的に思い起こさせます。私たちは深い寂しさとともに強い怒りを感じます。どうしてこのような現実が存在しえたのでしょうか。誰にこんなに多くの人々を死に追い込む権利があるのでしょうか。天の父よ、与えられたいのちを奪われているのは、あなたのこどもたちです、わたしたちの兄弟姉妹です。どの戦争によっても、私たちは大事な兄弟姉妹を失っていることをより深く感じたいのです。天の父よ、死と破壊のみをもたらす戦争に歯止めをかける勇気を私たちに与えてください。アーメン。



シナピスでは、毎月のお祈りをニュースレターとともに送っております。教会で、ご家庭で、日々のお祈りにお使いください。シナピスのホームページからも、ダウンロードしていただけます。



平和旬間の案内集ができました

今年の平和旬間は、集まって行事を行うことが難しい状況ですが、いくつかの小教区から工夫をこらした平和旬間の案内が届きました。この案内集は各小教区に配布しています。ホームページでも公開していますのでQRコードより読み取りご参照ください。詳細については、案内集に記載されている連絡先に直接ご連絡ください。



「核なき平和世界基金」寄付金の募集

教皇フランシスコの被爆地訪問を受け、核のない世界の実現のために「核なき世界平和基金」が始まりました。

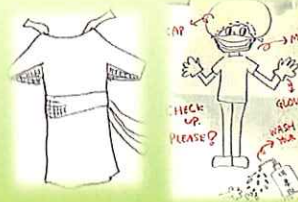
- 寄付金はおもに次の3つの目的のために使われます。
- ①「核兵器禁止条約」の批准・発効を後押しする活動の支援
 - ②世界の核兵器由来の放射能被害者の支援と放射能汚染からの環境回復の支援
 - ③核兵器廃棄を目指す活動の支援



*詳しくはホームページ (<https://nuclear-free.net>) をご覧ください。
連絡先: 「核なき世界基金」を支援する会 (広島本部)
TEL:082-221-6017/ FAX: 082-221-6019

医療用防護ガウンは必要ありませんか

今まで2000枚以上を医療機関に提供してきた医療用ガウン、とてもきれいに作られていますと好評です。診療所、介護施設、訪問介護などで医療用ガウンが必要なところをご存じでしたら、ぜひご連絡ください。最初は見本で何枚かお送りします。まずはお電話でご連絡ください! ☎06-6942-1784



- ・材料は約0.02mmの家庭用ごみ袋2枚と養生テープです。
- ・原料に布は含まれていません。
- ・サイズはMとLがあります。
- ・衛生面に細心の注意を払っています。

家電・生活用品 ご寄付のお願い

引っ越し、買い替えなどで、使えるけれども処分を予定されている家電製品や生活用品がありましたら、ぜひお分けください。例) 掃除機、洗濯機、ガスレンジ、ミキサー、未使用枕カバー、シーツ
お電話かQRコードでご連絡ください!



運転ボランティア募集!!

移住者の引っ越し家具運搬のため、軽トラックや乗用車を運転して下さる方を募集しています。車の準備、荷物の運搬等の力仕事は当方でいたします。お電話かQRコードでご連絡ください!



外国語聖書ご寄付のお願い

世界各国から来られた移住者の方が、ふるさとの言葉で読める聖書を探しています。中国語・スペイン語・ペルシャ語・英語の、使っていない聖書をお持ちの方は、ご連絡ください。お電話かQRコードでご連絡ください!



左のQRコードの読み取りには、スマートフォンなどでQRコードリーダーをダウンロードする必要があります。

ネリさん母子裁判 判決

10月29日(木) 13時20分

大阪高裁 82号法廷にて

(コロナウイルス感染防止対策のため
間引き傍聴の可能性あり)

ご寄付のお願い

○こども基金期間限定のキャンペーン ~8月末まで
ご寄付、ご協力をよろしくお願ひいたします。

支援の必要な団体:申請は随時受付しています!
詳細はHPをご覧ください。

○難民移住移動者支援も引き続きよろしくお願ひいた
します。

活動へのご支援ご協力をおねがいします

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス

食料品提供のお願い

例) お米、調味料、缶詰など保存のきくもの

お電話をお待ちしています!!

☎06-6942-1784



◆ニュースレターは、HP 上でも掲載しています。

⇒<https://sinapis.osaka.catholic.jp/>

あとがき

今月のテーマは「戦争がもたらす死と破壊」です。
「ある教会のおじちゃまのお話」を私たちはどのよ
うに受け止めたらいいのでしょうか。

戦争の体験者は年をとり、亡くなっていておられ
ます。戦争を知らない世代は、その声をしっかり聞
き取って、少しでも体験者の思いに近づく努力をし
なければ、同じことを繰り返してしまうかもしれま
せん。戦争が起きてしまったからでは遅いのです。
そしてもう一つしなければならぬことは、なぜ戦
争に至ってしまったのか、なぜ止められなかったの
かを考えることです。

おじちゃま、そして表紙の R.T.さんのように、悲し
みを前に呆然と立ち尽くす人をこれ以上つくっては
いけない。自分の身や大切な家族、友人たちの「い
のち」を前にして「戦争がもたらすもの」を想像し
ませんか。(H)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆広報活動

- ・教皇メッセージ、司教団メッセージ等
社会活動の指針の伝達
- ・読者と教会内外の社会活動をつなぐ
機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪教区・社会活動委員会との連携

◆学習会研修会の企画

◆こども基金

世界・日本のこどもたちへの援助

◆カトリック中央協議会との連携

正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、
カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣

◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への 働きかけ

◆難民移住移動者支援

難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル

☎ 06-6941-4999

アクセス

〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22

カトリック大阪大司教区事務局内



公共交通機関ご利用の場合

JR 森ノ宮駅より 約 1000m

地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より 約 800m

JR 玉造駅より 約 1000m

地下鉄鶴見緑地線玉造 1 番出口より 約 800m

車でお越しの場合

阪神高速 1 3号東大阪線法円坂出口

法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいします

郵便振替 00960-7-61419

加入者名 カトリック大阪大司教区シナピス